

# 第4号

発行 群馬県訪問看護ステーション  
連絡協議会  
群馬県医師会内  
住所 〒371-0022  
前橋市千代田町一丁目7-4  
TEL 027-231-5311  
FAX 027-231-7667  
責任者 鶴谷嘉武

# たいよう

## 「訪問看護ステーションの未来にむけて」



群馬県訪問看護ステーション連絡  
協議会  
副会長 片平 均

平成18年4月から前任の中野秀彦先生からバトンタッチで入会させて頂いていただきました。よろしくお願ひ申し上げます。

勤務医時代は在宅医療とはほど遠い現場にいました。開業後6年足らずですが、この間は超高齢化社会にむけた医療行政改革が過去にない速度で進みました（今後とも同様であると予想されます）。財政主導による診療報酬改定や介護保険制度改革がおこなわれ、私も迷走しながら、「かかりつけ医」の自覚のもと、在宅診療に取り組んできたと思います。医師の側から申しますと、本年

4月の診療報酬改定では在宅時医学総合管理料の新設「在宅療養支援診療所」という新たな施設基準の創設があり、「かかりつけ医」の在宅医療への取り組みが重要かつ必至の様相であります。国の財政は悪化の一途であり、医療費削減政策のもとで病院は在院日数短縮化にむけた取り組みや療養病床の削減に向け動きだしています。担がん患者、難病患者の在宅や施設への誘導が急速に増加する兆しです。そんな現状ですが、患者受け入れ施設の限界も見聞きますし、また在宅診療に係わる医師数も十分とは決していえませんが、そ

うなりますと家族の負担の増加が必至と思われれます。

在宅医療をとりまく現状は難問山積ですが、訪問看護ステーションは今後もこの中心的存在であることは疑問の余地はありません。仕事ハードにも係わらず経営面では厳しく、なかなか明るい未来が想像できないと思いますが、是非これからも良い看護の提供を維持していかうではありませんか。私も連絡協議会を通じみなさんの知識、技術の発展向上に努力する次第です。皆さんと二人三脚である「主治医」（開業医）をとりまく環境も悪化、また医師の高齢化もすすんでいます。かかりつけ医「が積極的に在宅医療に取り組み環境を構築していくことや、病院勤務医のドクターとの在宅にむけた連携強化も医師側からの今後の課題だと思ひます。

以上在宅若輩ですが、これまで「たいよの会」発足から御苦労された県医師会の先生方、当会の役員、またステーション勤務の看護職員みなさんの努力を無駄にしないようにこの会の発展に努めさせていただきます。

## 平成十八年度・総会・特別講演会

### 『宮崎和可子先生をお迎えして』

群馬県訪問看護ステーション連絡協議会

理事 櫛谷 雅子

平成18年5月27日に平成18年度の総会が沢山の会員の方の参加で開催されました。

総会終了後、「訪問看護ステーションが生き残るために―パートⅢ」と題して、健和会訪問看護ステーション統括所長であります、宮崎和可子先生の講演をいただきました。

4月の診療報酬、介護報酬改正で、グループホーム、特養などとの医療連携加算について、早朝、夜間、深夜における短時間訪問の意味について、ターミナルケア加算についてなど、微妙に解かりずらいところを解かりやすく説明していただきました。

特にグループホームとの医療連携加算については、名義貸しの契約してしまったりしかねないところを、グループホームとはから始まり、その中の看護師の役割



についてまでご説明いただき、これから契約し活動してゆく上でとても参考になったのではないのでしょうか。

私も時々全国訪問看護事業協会の研修に参加することがあり、昨年認知症ケアの研修に参加しました時に、宮崎先生のグループホーム「福さんち」をビデオで拝見させていただきました。とても心温まる、そして日々の仕事の中でやもすると忘れてしまいたいような何かを思い出させていただいたように記憶しています。

先生には大変お忙しい中、またお天気も優れない中、群馬までおいでいただき、感謝に耐えません。会員の皆様におかれましては、今回の講演を今一度思い返し、日々の業務に役立てていただければ幸いです。

## 〈グループホームとの医療連携を開始して〉

訪問看護ステーションきらくな家

中里 貴江

当ステーションでは4月からの制度改正に伴い、2ヶ所のグループホームと医療連携を持つことになりました。4月中に契約書（1ホーム月約10万円）定期訪問（1時対応）を交わし、4月末に各グループホームに挨拶に伺い、実際のスタートは5月からになりました。2ヶ所のグループホームは同一母体で距離も5分ほどのため、毎週火曜日の午後訪問としました。計18人の入居者を覚えるために事前に情報も頂き、毎回名前を確認しながら接し、特徴をノートしました。

今まで往診医が見つからず大変だったと母体側より依頼があり、往診医師の紹介もしました。5月は5回の定期訪問と往診医師の同行を行い、今後の医療体制も整いました。

5月は特に何も無く経過しましたが、6月に入り不調の方が現れま

した。Aホーム1人、Bホーム4人で、感冒などでした。その度に状態を確認し、医師とも連絡を取り毎回訪問対応しました。その事でホームの職員にも具体的な対応方法などを説明でき、入居者は各々軽快しました。ホームの職員は医療連携があつて良かったと実感したようです。

### 〈今後の研修会予定〉

○平成18年12月16日(土)  
日本訪問看護振興財団認定看護師教育課程

主任教員 角田直枝先生  
「がん看護・はじめの一步」  
その人らしく死ぬために  
○平成19年2月3日(土)  
家族看護研究所

所長 渡部裕子先生  
「家族ケアの基礎」アセスメントと援助方法

# 訪問看護ステーション連絡協議会

## 西支部ステーションだより

### 訪問看護ステーション

ナース・カンパニー

田村 則子

2年程になるだろうか。突然、親孝行がしたいと思うようになった。

なぜ、そんな風に思い立ったのかわからない。自分が年令を重ねてきたからなのか。訪問看護で様々な家族に接する事が多いからなのか。いざ改まって考えると、何をどうしたら良いのか。何だか気恥ずかしくて、照れくさいような、よそよそしいような気分になってしまう。結局、親孝行らしい事は何も出来ていない。今は、どんな時でも自分を信じて見守ってくれている両親を思いながら、目の前にいる方々を大切に看護する事が、ささやかながら自分なりの親孝行と思い、日々を過ごしている。が時々、不平不満を口走る自分に反省しつつの、中途半端な親孝行である。

### 幸せを感じるターミナル期

サンピエール病院訪問看護ステーション

T・S

母とお別れしたのは一昨年の秋

だった。膵臓癌を患い手術により一時的に病状は安定したが、最終的には卵巣に転移し、五十四歳の若さでターミナル期を迎える事になった。

母は自分の病気や寿命を知り、前向きに受け入れようと必死だったと思う。そして、最期の時を家族や友人と自宅で過ごす事を決意した。母がターミナル期において不安感が少なく笑顔で過ごせたのは、家族や友人の存在だけでなく、訪問看護の存在が非常に大きかったと思う。訪問看護師さんは、死を目前に控えた母に対して同情するのではなく、一緒に笑い、一緒に話し、一緒に同じ時を過ごし共感してくれた。母にとつてはそれが嬉しく心強かったのだろう。母は、「癌は良い病気だよ。寿命がわかるし、みんなにお別れとお礼を言つて逝けるからね。私は幸せ。」という言葉と、目に見えないたくさんの財産を残してくれた。

### 一期一会に感謝して

訪問看護ステーションMWS日高

有坂美奈子

私たちは日々訪問看護をする傍

ら、日ごろの感謝を込め、誕生日を迎える方にささやかながら手作りのカードをプレゼントさせて頂いています。今回、カードという物にこだわらず、看護の場面から、その利用者さんの為にささやかな贈り物が出来たらと思い、誕生日企画ケアなるものに挑戦しました。Aさんは要介護4、奥様の協力なくしては、日常生活を送る事は困難な方です。Aさんとの6年間を振り返ると、最も私たちの心に残っている事は、通信の高校を卒業した事です。数キロ離れた学校に電動車いすで、暑い夏も、風の強い冬も、烏川をまたぐ和田橋を渡り、地道に通われました。時には辛い日もあったと思います。が、一つの目標に向かっていく姿に私たちも、大変励まされました。そんなAさんの訪問看護では、清潔ケアを中心とした室内でのケアが中心の為、外出する姿を見る機会はありませんでした。外出好きなAさんは、教会や美術館などに外かける話を楽しそうに聞かせてくれていました。今回、誕生日企画として、Aさんと共に楽しいひと時を過ごし、普段見ることの出来ないAさんの姿や想いに触れられたらと考え、訪問ケア終了後の時間を利用して、近所の美術館に出かける事を計画しました。道中様々な思い出話や、外出先での工夫、普段見ることの出来ない素敵な笑顔など、いきいきと街の中を歩く姿は、普段ベッドの上にいる、

私たちの知っているAさんとはかけ離れた姿でした。今回の誕生日企画を通し、Aさんと奥様、ケアマネージャーさんのご理解や協力のもと、いつもとは違った場面で関わらせて頂き、本当の普段のAさんに出会うことが出来たように感じます。また、今後のAさんとの関わりに、この出来事が看護の幅を広げるきっかけになったと考えます。Aさんも普段見ない看護師の姿、見て頂けたのではないのでしょうか。誕生日は誰にとつても特別な記念日だと思います。そんな日に、日ごろの感謝を込め、ちよつとしたアクセントを今後も訪問看護の場面の中で考えて行きたいと思えます。今回のように、反対に私たちがプレゼントさせられる事はありませんが。





## 訪問看護ステーション ことり

須藤 順子

「訪問看護ステーションことり」は、平成10年にスタッフ3名でスタートしました。現在は、5名でアットホームな雰囲気の中、がんばっています。

また、今年度より、今回の介護保険制度改正を機に、「高崎市在宅介護支援センターことり」「第一病院居宅介護支援事業所」とともに、「ケアセンターことり」としてリニューアルオープンしました。3つの部門が、お互いの専門性を尊重し合いながら、協力体制を強化していきたいと思っています。

第一病院看護部の理念である「人と人とのつながりを大切に、患者様や家族の皆様から満足していただける看護」を目指して、時には利用者様の、娘となり、孫となり、友人となり、親となり、いろいろな顔を持つ看護師として日々、悪戦苦闘しています。

## N君との思い出より

富岡地域訪問看護ステーション

神戸真知子

Nくんにかかわって三年目を迎えたある日、入院先の病院で奇跡が起こる事に最後の望みをかけておられたであろうお母さんから、Nくんの旅立ちの知らせをいただ

きました。

リハビリ・プール入浴・食事援助・水分補給・遊び（歌・読み聞かせ・手遊び）など、ふりかえってみるといろいろな事をさせてもらいましたが、お母さんの援助になつていけるのだろうかという不安があり、時々訪問看護の方向性をお母さんと相談しながら、関わらせてもらってきました。

ある時は発熱していると臨時訪問依頼があり、又ある時はお母さん自身が体調不良になつてしまい、受診の間の留守番看護を依頼され、このような時は計画的でも緊急でも充分に対応しました。こうしているうちに、これがN君のお母さんにとっては最も必要としている援助のようにも思えました。遠方の病院に通院しながら、自宅の近くで、受診も入院もできる第二の病院を得るお手伝いのできたことも、一つの成果と自負しております。

成人した（広い意味で高齢化）重度障害児の方は、在宅生活上の困難さがあります。①小児医療からの移行に関する事 ②在宅での生活及び身体援助サービスのしづり ③通所サービスの受け入れ困難 ④福祉制度の変化や分かりにくさ 等々。

地域差があるのかもしれませんが今後障害者自立支援法が動き出したらどうなるのか見守りつつ、医療連携や看看連携、そして他職種間の協働など、出来る所から取

り組み、N君のような方々が、安心して生きていく事への協力者になつていけたらと考えています。N君のご冥福を祈りつつこの両親様へ哀悼の意を表します。合掌。

## 聴き上手な訪問看護

松井田病院訪問看護

新井 房江

もうかれこれ訪問看護を開始してから4年になる多発性脳梗塞の女性がいる。92歳、体型はプロクンとしている。

特に処置などはしていないが、バイタルを測ったり、話しをしたりと30分計画で訪問しているがこの女性、「胸が苦しい」と訴えながらもよくしゃべる。1時間延長もしばしば。

ご主人と二人暮りで、女性は体重があるのも手伝って段々と歩行できなくなり、這って生活をしている。現在はベットと居間の間を行き来するだけ。ヘルパーさんのお世話になつている。

こんな話をしたら失礼だが難聴のご主人との会話は成り立たず一方通行。時々思い込みから面白い話を聞かせてくれる。

湿布かぶれによる発疹を見て「自分の足に赤いキノコがいつぱい生えた。きれいな色だったけど気持ち悪かったよ」とか「おなかの中にタニシを飼っていて、この間便と一緒に排泄したけど生きたまま出てきたヨ！」などなど……

最近キツネの話。「夜眠つていたらキツネが出てきて、布団の上から私に噛みついて来た。とても痛かったけど噛んだあとが無かった」

こんな話をするものだから、年齢的に認知症も進んでいるなあと思つていたら、結構しっかりしていて、女性に「よくしゃべりますねー」と聞いてみたところ「おじいちゃんとは話が合わないからみんなが来た時に会話しして頭の回転を良くしているんだよ」と言われてしまった。

なんとも憎めない女性である。時々不穏状態になり昼夜関係なく電話をしてきてナースを苦しめてちよつと手が掛かるけど、話し相手が必要と思われている間は訪問し続けたいと思つている。

## 編集後記

皆さん、お仕事の合間の息抜きは出ていますか。忙しい中ですが、道に咲いている花に目を留めてみてください。優しく微笑んでいますよ。

この会報も第4号となりました。情報の収集や意見交換の場となるよう考えています。皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしております。

広報担当（M・T）